

第54回中央労働講座に参加して

九州地方博多支部 野元 慎太郎

シーパレス日港福にて5月18日から3日間にわたって行われた第54回中央労働講座に参加しました。労働講座の中身としては、人材不足と離職対策におけるメンタルヘルス問題、全国港湾の歴史や成り立ち、国の港湾政策に影響を受ける事業・労働環境に対し、港湾運送事業法や港湾労働法を成り立ちを通じ、これからどう生かしていくのか、過去の港湾闘争から学ぶ団結の必要性、などをテーマにそれぞれ講義を受け、各グループで話し合い発表するという中身でした。

私自身として、まだ経験が足りない中での参加で不安ではありましたが、グループ内でそれぞれの港の現状などを話し、様々な問題を共通認識しながら、初めて顔を合わせながらも1つの些細な問題にも色々な知恵を出し合い、我々の向かっている方向性はみんな一緒で、全港湾の団結の強さというものを改めて感じることができました。

講義の中では、港湾運送事業法や港湾労働法がどう作られなぜ必要なのか、自分の中では、学ばないといけないとわかりつつ、遠回しにしてきた問題をわかりやすく学ぶことができ、今後の自分の課題としても認識できました。

その中でも、現在の組合の方針として賃金・労働条件の引き上げを重要としているが、組合員の精神の支えになる組織・運動への進化の必要性という話の内容には、私自身の分会として特に重要視している問題なのでとても参考になり、さっそく展開していきたいと思えます。

労働講座に参加して、先代の港湾労働者の方々が築き上げてきた古き良きものを、これからの時代にどう継承していくか、また、時代に合わせどうアップデートしていくか、ということがいかに大切な事で、これからの時代を担っていく我々自身の声がいかに重要で、自分たちの手で「魅力ある港湾」を作っていく、という重要性を感じました。最初は不安ではありましたが、最後には多くの仲間と知り合う事ができ、自分自身もとても成長できた3日間でした。54期生として学んだ事を今後の組合活動に活かしていきたいと思えます。参加させて頂き有難うございました。